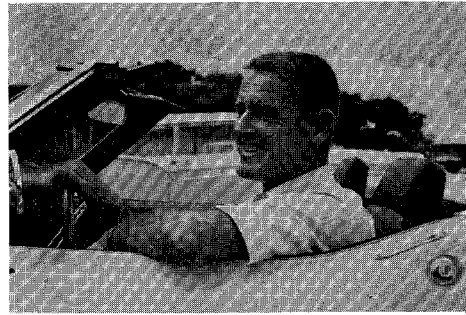


◇ 4月の天文暦 ◇

日時	記	事
1 14	水星	東方最大離角
2 7	天王星	衝
3 1	上弦	
5 20	清明	(太陽黄経 15°)
8 17	月	最遠
10 4	水星	留
11 5	望	
18 22	下弦	
20 8	水星	内合
21 3	穀雨	(太陽黄経 30°)
24 3	月	最近
25 13	朔	



(撮影 成相恭二)

ヘルムート・アプト (H. Abt)

ヘルムートとの初めての出会いは65年の暑いさなかであった。彼は本郷の教室で聞きとり易い英語で1時間ほど話した。その主題が Ap 星だったのか Am だったのか覚えていない。几帳面に活字で板書したのが強く印象に残っている。それから旬日の後、箱根、富士、京都等を訪れながら東海道、山陽路を西下し、同行の学生と岡山の石田五郎氏と内海を渡って来た。トレードマークともいえるブルーの夏シャツにショートパンツで気軽にレンタカーを駆り、屋島や鳴門へと足を伸ばす姿は非常に精力的だった。

66年から1年キットピーク滞在の好機を得た私は、さながらオーヴンに飛びこんだようなツーサン空港で彼の姿を見出した時、再会の喜びより安堵感が先であった。各地から集るヴィジターを案内して街に出る時はかならず声をかけてくれたりして、無口ながら親切な配慮を忘れたなかった。

キットピーク天文台は性格上、大学とは異ってスタッフは可成りの時間をテクノロジーや管理の面にさかなけ

ればならない。メイオールやホアグは無論、クラウドフォードは二つの150吋のプロジェクトに、リンズはコードとのイメージ・チューブの開発に忙しかった。彼も84吋を主宰していた。その中を月に1度は欠かさずパサデナやロスへ車を飛ばしていった。

彼の研究面に就いては他に語る人もあろう。大沢、寿岳といった親交の厚い人達である。従って彼の側面について語らせて欲しい。

彼は勿論星を含めてであるが審美主義者といえよう。ケヤフリーな旅とクラシック音楽をこよなく愛する。“この夏はオーストラリアの冬を楽しんだ”とか“チリーの落日を君に見せたい”と書かれた、クリスマスカードを寄こすのが毎年の習慣である。その外観に似てオープンマインドで飾気がない。幼くして父と渡米してきたことに由るのか、心情的に日本人に近い。女性の秘書に代って彼の研究室ではスチュワート天文台(アリゾナ州大)の大学院の学生の姿がある。そこから乾いたアリゾナの空気の中をベーターベンが響いて来る。こんなことが未だに孤高を守ることにつながるかどうかは不明だが、多くの人に好れる人柄は Ap. J. の編集者たることと極めて相関的である。リック、ヤーキスを経てキット・ピークに移り住んだ彼は知名度も高い。今後の活躍が期待されると共に、忘れ得ぬ人である。(三沢邦彦)

◇ 4月の日月惑星運行図 ◇

